

# 地域おこし協力隊通信

第33回



リポーター  
小林正英 隊員

皆さんこんにちは！地域おこし協力隊の小林です。今回は、2月24日（木）に行われる予定の株式会社鹿島アントラーズFC代表取締役社長である小泉文明氏による「鹿行まちづくり講演会2022」についてお話したいと思います！

昨年11月、潮来ホテルにて行われた鹿行法人会主催の講演会に潮来市地域おこし協力隊として参加させていただきました。法人会が主催ということで、講演の内容はビジネスが中心。プログラミング教育や技術刷新のお話など、デジタル技術を用いたビジネスに関する話が主でした。最先端の技術が好きなお私としては、講演中ワクワクが止まりませんでした。例えば、アントラーズの試合を客席から、広い視点で見ながら、イスについているモニターで、試合に出ている各選手にフォーカスした映像が流れる。自分が応援している選手が活躍するシーンを間近で見られるんですよ！どうですか？試合が何倍も楽しくなると

思いませんか？そんな話がいくつもあり、興奮しっぱなしでした。参加する機会を与えてくださった方々に感謝しています。さて、その講演会の終わりに質問コーナーがありました。法人会主催の講演会なので、本編だけでなく質問もビジネスに関することが中心のかなと思っていたのですが、実際は地域交通や子育てなど、どちらかというところまちづくりに関することが主。ビジネスの第一線で活躍している法人会の会員さんが多く集まっているこの場で、まちづくりに関する質問が多いということは、そうでない方なら、なおさらまちづくりに関することに興味があるものかもしれない。これからの鹿行のまちづくりに関して、もっと多くの人に知ってほしいと思ったことが、『鹿行まちづくり講演会2022』を企画したきっかけです。講演会の詳細は、左をご覧ください。皆様のお申し込みもお待ちしております。それでは！

**小泉文明社長登壇！**  
株式会社鹿島アントラーズFC代表取締役社長  
株式会社メルカ 取締役会長  
「アス」を拠点としたまちづくり会社新設  
すべては「アス」をより豊かにするために

**鹿行まちづくり講演会2022**  
～進化したデジタル技術によって、鹿行のビジネスが、子育てが、地域医療が、変わる！  
あなたも無関係ではられない！！そして気になるアントラーズの強みはどこに！！～

日時 2022年2月24日(木) 15:30～17:00  
会場 潮来公民館大ホール（茨城県潮来市潮来456-1）  
定額 先着130名様（事前予約制）  
申込 右のQRコードより応募フォームに飛び、必要事項を記入の上、送信してください  
開演 2022年2月22日(火) まで

～講演内容～  
・鹿行のビジネスが変わる  
・鹿行の子育てと教育が変わる  
・鹿行の地域医療と健康づくりが変わる  
・鹿島アントラーズの強みが変わる

講師 小泉 文明  
鹿島アントラーズFC代表取締役社長

主催：潮来市 企画調整課 地域おこし協力隊  
お問い合わせ：tako\_chokoshitai2018@gmail.com

## まちづくり・潮来の自然と歴史を知る

### 潮来市の誇れる自然

#### 水郷の魚たちー魚の越冬とおだ漁

連日、霞ヶ浦・北浦の入り江奥部で湖面が氷結するほど（写真1）、今冬は厳しい寒さが続いています。こんな寒いとき、湖の魚たちはどうしているのでしょうか。ワカサギやシラウオなど冷水性魚類は、寒くても平気で泳いでいますが、これらはあくまで少数派です。温水性魚類は春から夏にかけて湖岸近くや河川・水路などで繁殖し、浅い所に多いのですが、冬になると姿を消します。越冬のために深場へ移動するようなのですが、その詳細を調べた事例はありませんでした。

のボサや水路の深い所などでひっそりと越冬する小魚もいます。水郷地域の伝統漁法「於采（おだ）漁」は、このような温水性魚類の越冬習性をうまく利用したものです。水深が深い所に松や椎の木材を多数沈めて大きな隠れ家を作っておき、そこにコイやフナなどが入り込んだ頃を見計らって周囲を網で囲い、船上からサオで隠れ家を突きまわして網に追い込みます。県の統計によると、1901～1910年（明治34～43年）に霞ヶ浦全域で於采が446～604個も設置されていた。漁業技術の進歩もあって、近年、於采漁はめっきり見られなくなりましたが、冬の魚たちの営みは連綿と続いています。

県水産試験場内水面支場が霞ヶ浦で実施している底曳き網調査のデータを、私たちの研究室で解析させてもらったところ、霞ヶ浦沖の深場でさまざまな魚種が越冬していることが判明しました。例えば、コイ（写真2上）やギンブナなどは春に植物帯近くで繁殖し仔稚魚が成育し、また、スゴモロコ（写真2下）は春から秋に流入河川で暮らしていますが、いずれも湖の沖の深場で越冬していました。ほかに植物

加納光樹・神成田優花

で繁殖し仔稚魚が成育し、また、スゴモロコ（写真2下）は春から秋に流入河川で暮らしていますが、いずれも湖の沖の深場で越冬していました。ほかに植物



写真1：北浦の入り江奥部で湖面が氷結！



写真2：北浦のコイと流入河川のスゴモロコ（木村将士・渡邊美如々撮影）